

◁第7回年会報告▷

第7回年会を終えて

実行委員長 菅 滋正 (大阪大学基礎工学部)

日本放射光学会の第7回年会はさる5月11日から13日までの3日間神戸市産業振興センターにおいて開催された。初日は井口会長の挨拶で始まり勝部、金森両先生の特別講演に引き継がれた。両特別講演とも先端研究をカラーライドを用いたり分かりやすい表現で説明されたりして、非専門家にも分かる素晴らしい解説であった。放射光学会のように様々な分野の研究者の寄り集まる学会に対して未踏の境界領域の開拓が期待されている。定員400名のホールの2/3は埋まっていたようで、初日の登録参加者数が270名であったことからすれば参加者の多くが特別講演を聞かれたことであろう。

午後の後半からポスター発表が行われた。会場予約時は「広すぎる。はたして埋まるかな」と悩んだ2階展示場(546㎡)は、2日間で199件のポスターと計32小間の企業展示があり、お茶飲みコーナーをもうけたこともあるがフロア全体に熱気があふれていた。4月に入っても続々来るポストドラインのポスターならびに企業展示の申込に“これ以上は入りませんよ”と庶務、会場ならびに企業展示係の実行委員の先生方に言われたが無理をお願いしたものである。ポスター発表の議論も各所で大いに白熱していたようで、山中高光委員長をはじめとするプログラム委員の先生方ならびに発表者の皆様に深く感謝する。ボードの大きさ、空調、照明もまずまずではなかっただろうか？

初日夕刻6時から懇親会を予定していた。これにはアジア交流放射光フォーラムの外国招待講演

者をお招きする事になっていた。予定時刻になると外国の方はほぼ揃われたが、時間が過ぎても肝心の放射光学会員が、いかにも少ないというハプニングがあった。参加者が150名を越えるとの申込状況であったので念のため3階のホールをのぞくとなんとまだ総会が続いているではないか！小聲で参加者のお1人に聞くとなんと6時になってもまだ予定議題の半分しか終わってないとのことであった。熱気のある総会はそれはそれで意義深いものであるからしばし待ったが、25分を過ぎてついにパラレルセッションにはいることを決心した。懇親会は理研植木氏の司会でまず私から初めの挨拶をさせて頂き、ついで、太田、井口、高良各先生より挨拶を頂いた。これに引き続き佐々木泰三先生の音頭で清酒鏡割りを行い乾杯ののち宴に入った。このころには総会も終わり会場には人があふれる状況であった。

2日目は午前中は2つの会場に分かれて企画のI(放射光による各種高分解能実験)、II(企業における放射光研究およびSPring-8の現状と利用)についてパラレルセッションがおこなわれた。定員108および66名の会場であったが椅子を追加しても立ち見の出るような盛況であった。現在、日本の放射光研究はまさに円熟期にさしかかっており大学研究者も民間研究者も共に先端的成果を蓄積しつつあると言っても良い。とりあげられた研究の多くは世界的にみても先端的研究が多い。これらの成果に立ってつぎのSPring-8などの利用が円滑に進むことを期待したい。

原研・理研共同チームの協力を得て今回は

SPring-8見学会を企画した。アジア各国の放射光関係者以外に約30名の学会員に建設の現場を見て頂くことができた。百聞は一見にしかず、じかにご覧頂いた建設中のリングはいかがでしたか？見学会参加者は午後の学会には参加できないと言うことで会期の制約とは言え誠に申し訳ないことであった。

午後はポスターセッションが行われた。これと一部重複してシンポジウム(1)各施設のトピックス(2)合同利用者シンポジウムが順に行われた。各施設のトピックスでは、年會に出れば国内すべての施設での色々な分野の多くのトピックスにふれられることを目標に各施設からスタッフ・外部利用者を問わず推薦を頂いた上でプログラム委員会で講演者を絞らせていただいた。

一方合同利用者シンポジウムでは、各施設から放射光学会会員全体に向けての将来計画の概略説明とか、各分野の利用者からそれぞれの施設へどのような役割を期待しているのかとか、共同利用に対する希望とかをとりあげ学会全体としての広い視点からパネル討論を行うことを試みた。今回取り上げられた話題は1.各施設の現状、2.将来計画(新規計画ならびにスクラップ&ビルド計画)の内容、3.汎用ビームラインと限定目的先端的ビームラインの適正な配分、4.利用者数や利用グループの拡充、5.共同利用について(外部利用者の居室、旅費、利用申請様式等)等であった。各パネ

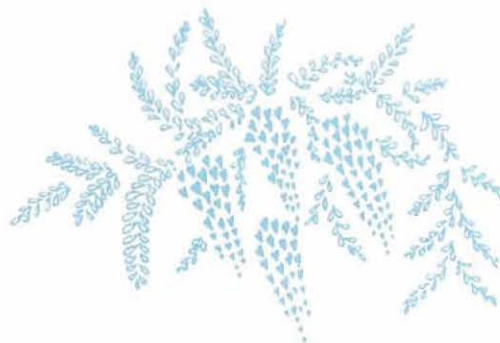
ラー7分の持ち時間でそれぞれとても簡潔かつ分かりやすい情報提供であった。今回は単にきっかけであり次回以降より、具体的に施設・利用者ともに知恵を絞って放射光の発展を全員参加で考えて頂きたいものである。そのためにもより多くの利用者からの声が聞けるシンポジウムであって欲しい。

各施設のトピックス、合同利用者シンポジウムと盛りだくさんの企画であったために、講演一つ一つにとれる時間が短くなってしまった事を皆様にはおわびしなければならない。今回の試みに対する皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いである。

さて3日目のアジアフォーラムを含めて、年會登録者数はこれまで最高の374名、外国人招待者を含めると392名と、400名の大台まであとわずかである。そのため400部運び込んだ年會予稿集もほぼ出払ったようである。学会期間中の新規の会員申込も35名のうち学生11名と今後に大きな期待をもてる状況であった。

本會の開催にあたり歴史的な不況下にもかかわらずたくさんの企業から企業展示のお申込をいただきありがとうございます。

最後に献身的に働いていただいた実行委員会メンバーの方々全員(副委員長尾嶋氏をはじめ大門、那須、難波、猪子、奥山、草尾、林田、中川および今田の各氏)に深く感謝の意を表したい。



第7回年会風景



写真1 『放射光は精選の時代に入った』と開会挨拶をされる井口会長



写真2 『放射光でなくては出来ないんですよ』と蛋白質の構造について特別講演される勝部先生
(元阪大蛋白研所長)

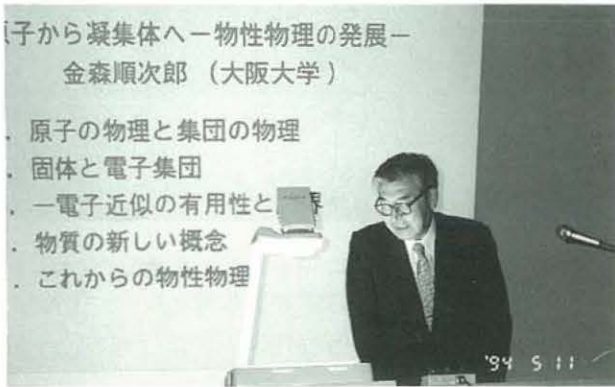


写真3 『原子から凝縮体へ』に関する特別講演を行われる金森阪大総長



写真4 金森先生の特別講演に食い下がる水木氏
『表面の磁性では、あのーそのー』



写真5 『今回のプログラムは良かったでしょう』と言って辛先生の説明を聞いていない山中プログラム委員長



写真6 ポスターセッションも白熱していました。
(Heun氏にドイツ語で質問する佐々木先生)

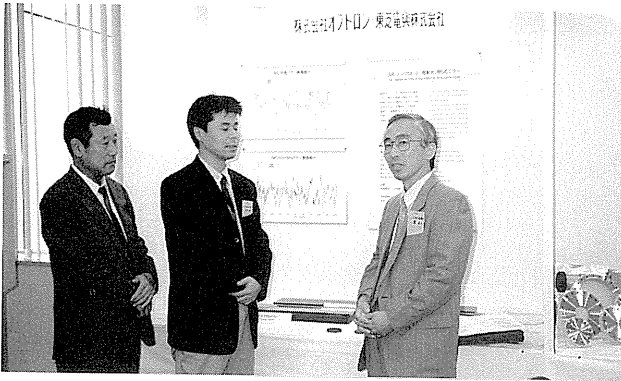


写真7 企業展示で挨拶する菅年会実行委員長
『お蔭様で31小間も展示して頂いて』



写真8 『ワン、ツー、スリー!』で鏡割りを行う
元放射光学会会長諸氏と Kulipanov, Liu
両教授 “But, it's already broken!”



写真9 石井先生に追求(?)されて唸っている
那須先生。
『それより、もっと飲みましょうよ』



写真10 『枥酒は格別! それにしても盛況ですね』
と真っ赤な顔で杯が進む皆さん



写真11 SPring-8 バスツアーに向かうアジアからの
招待者達。
『私が英語でガイドします』と原氏。



写真12 大成功の内に閉幕し、『ご苦労様でした』
無人のホールで記念撮影;
年会実行委員会のメンバー

駄文と写真; 尾嶋